

「光の道」WG (第10回)の結果について

1. 日時

2010年11月12日(金)17:35~20:00

2. 参加者

山内主査、相田構成員、北構成員、篠崎構成員、中村構成員、吉川構成員

3. 議論の概要

公正競争の一層の活性化に関する骨子(案)について意見交換を行った。

【主な意見】

- 民間事業者が設備競争をしたいと言っている時に、競争原理によらず、計画経済的に光を整備することとするのはおかしいのではないか。
- インフラ整備専門会社については、基盤整備の点だけでなく、整備した基盤をグレードアップするインセンティブの点からも評価することが必要ではないか。
- ソフトバンク案は、光の推進策という面では評価できる部分はあるが、メタル撤去については、番号ポータビリティ機能の扱いなど中継網に関する課題もあり、5年間での実施は難しいのではないか。
- ソフトバンクの試算に感度分析を行うと、振れ幅が大きい。国が出資することはリスクが高いのではないか。
- NTTの在り方の評価の視点に「グローバル競争への対応」があるが、これは、NTTをグローバルに活躍させるという意味か、それとも日本のインフラ環境を国際的に競争力があるようにするという意味か。
- NTTは、概括的展望で、メタルから光へのマイグレーションが2025年までかかると言っているが、1年でも早く前倒しできるようにすることが必要ではないか。
- どの業種でも企業の活動に何らかの規制はあるが、逆に、その条件の下では企業の「経営が自由」であるのは当然のこと。政府が「経営の自由度」まで操作できるかのような文言は必要ないのではないか。
- NTT東西に課される規制の委託先子会社による潜脱は、委託先が子会社でなくても生じうる問題ではないか。
- 最近では、電気通信事業者によるコンテンツプロバイダの囲い込みの問題があると聞いている。このような問題とSMP規制の関係をどのように考えていくのか。
- 電気通信事業は、技術革新が著しい産業なので、環境変化に制度が対応できるように、適時適切に制度を見直す仕組み作りが重要ではないか。

4. 今後の予定

次回は、11月18日に開催することとなった。